

静波海岸「自由の女神像」について

○ 一代目「自由の女神像」(環境美化啓蒙塔)

1. 設置の目的 (経緯)

県の補助事業である「空き缶等散乱防止モデル事業」により設置。(保健衛生課)

静波海岸の砂浜、海に空き缶を捨てて行く人が年々多くなり、空き缶のポイ捨て防止の啓発と世界中に環境美化を呼掛ける事を目的として、人目を引く「自由の女神」とその下に地球儀の半球(=ゴミ箱)を組合せ設置した。(インパクトを与え知名度アップのため)

自由の女神 === 自由の中にもルールがあるということを訴えるため。

地球 === 海は世界中に繋がっていて世界は一つということ。

2. 設置年月

平成元年 6月設置

3. 設置場所の選定理由

静波海岸の真ん中の位置にあたる事と、海水浴シーズンは、この縦の道路が車の出入りも多く、人目を引くという事で現在の位置にした。

4. 設置後の実状

空き缶の回収箱として設置したが、一部のモラルの無い人々により一般ゴミや生ゴミ等も入れてしまう、ただのゴミ箱と化してしまった。

5. 撤去年月

平成 7年 6月撤去

6. 撤去理由

塔内部の腐食が激しく、塩害により腕が取れてしまい、危険なため。

また、この頃より『ゴミはゴミ箱に捨てましょう』から『ゴミは持ち帰りましょう』というように、ゴミに対する意識や考え方も変わってきた。そこでそれまで海岸に設置してあったゴミ箱と合わせて撤去した。

○ 二代目「自由の女神像」(歓迎塔兼環境美化啓蒙塔)

1. 設置の目的 (経緯)

県の補助事業である「観光施設整備事業」により、静波海岸歓迎塔を設置。(商工観光課)
一代目の自由の女神像を平成 7年 6月に老朽化のために撤去(上記 6)したが、静波海岸の観光ポイントとして旧榛原町の貴重な観光資源(シンボル)となっていたため、環境美化と静波海岸への誘客を目的に再び観光塔を設置した。

2. 設置年月

平成 9年 3月設置

3. 設置場所の選定理由

「一代目の自由の女神」が静波海岸のシンボルとなっていたので、同じ場所とした。

- ※ 「一代目の自由の女神像」については、廃棄処分することになり業者に見積り依頼をしたところ、塔の素材が特殊なため、処分料がかなり高額であった。その矢先、無償で引取ってくれる方が現れたため、引取りをお願いする事になった。
その後、引取った方により、「一代目自由の女神像」は修復され、牧之原市細江(東福田)の道路脇に現在も立っている。